

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700095		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム 湯郷 (A棟)		
所在地	岡山県美作市中山1483-1		
自己評価作成日	令和 3 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3393700095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の尊厳を保持し、可能な限り自立支援を図ることを介護方針としています。認知症介護の専門機関として、「心温まるケア」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ禍で何もできない」という言葉は一切使わず、利用者にほっとさせず、常に動くことを前提に、人の繋がりを深め、近隣の人々と関りが薄れないようにしている。近所にいるやぎの行動を見守りに行ったり、施設内の桜の花と一緒に記念撮影をしたり、町内のゴミ出しをしたり、近所の人とおしゃべりができる散歩を継続している。利用者は家族と会えない日々の欲求の解消を一葉の写真にしたため、家族との絆をつなぐアイテムとし、心温まるお便りとしてのふれあいを今も充実させている。統括管理者は管理者と共に、職員が介護している姿や利用者の情景を優しく見守り、日々に追われても、日々の管理業務にペンを走らせている。施設のために身を粉にして、傍を楽[働く]にし、人の助け合う気持ちを大切に共生社会の実現を目指す穏やかな施設が拝見できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットの管理者同士で「認知症専門ケアの実践」が合い言葉となっている。	理念は1階の玄関と事務所に掲示している。法人の理念が改正されたので、4月からは新しい理念を掲示する予定。新人職員には、オリエンテーションで法人理念と経営理念を紹介している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で、地域の祭がなかった。施設周辺の散歩の際、地域の方々と話す機会など、感染防止に留意しながら地域との関係維持に努めた。	以前は、地域のお祭りや高齢者サロンでの交流があったが、現在はコロナで中止となっている。町内会との繋がりがりがあり、地域のゴミ拾いや溝掃除に参加している。散歩中に近隣の人に欠かさず挨拶を交わし、地域との関係継続が途絶えないようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	知識や技術の発信を目標に、取り組んでいる。積極的に実践していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年、事業内容、事故報告、利用者の入退所、職員の異動など報告を行ってきたが、今年はコロナの影響で、会議を行う事が出来なかった。事業内容などをまとめた紙面を運営推進委員様に郵送するなど、工夫した。	会議には、地区の元民生委員、市の高齢福祉課、包括、家族の代表が参加していた。今年度は書面でのやりとりをしている。写真も一緒に送ってほしいという要望があったので同封すると、家族や孫の写真が送られてくるようになったので、利用者が大いに喜んでくれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染予防のため、運営推進会議へのご参加はしていただけなかった。提出物や報告をする際は、郵送せずに役場まで足を運び、直接手渡しすることを心がけている。特に事故や苦情に関しては、報告、相談をしている。	統括管理者はできるだけ、役場には足を運ぶように心がけている。担当者とは何でも話せる関係が築けていて、感染対策の情報交換も行った。現在は、FAXやメールでのやりとりも多く、わからないことがあれば何でも教えてくれる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓や出入口も積極的に開けて開放的な空間作りを心がけている。対応に苦慮する場面でも、工夫をして身体拘束をしないケアをしている。	身体拘束はしていない。2ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催し、拘束については、職員会議でも話し合いをしていて、ベッドの柵やカギの掛け方、日々困っていることについて議論している。現在は、ドラッグロックにも細心の注意を払って職員と共有している。	スピーチロックなどの研修をしてみてもいいかがでしょうか？
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員対象に講習会を行い、虐待に当たる行為など基本的知識の確認を行っている。また組織運営面でも、職員がストレスを抱えこまないよう、人員調整や勤務状態に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利擁護に関して、日々意識できるように指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族へ説明行えている。ご本人も極力交えて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行うことが出来なかったが、利用者様と接する時間に集中できた1年だった。ご家族には面会の機会がないぶん、電話連絡や毎月写真配布をするなどして、情報発信を積極的に行った。	面会が出来ない分、電話連絡が中心となっている。お便りの郵送時に写真を同封することで、家族を身近に感じて頂けるような工夫をしている。預り金や出納帳がわかりにくいという意見があったので、手書きからパソコン入力に切り替えたなら喜んでくれたことがあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が各ユニットで職員から意見・提案を受け入れるよう努めている。日々のコミュニケーションを重視し何でも相談できる関係を目指している。	職員はどんな意見でも話せる環境を求めている、各ユニットの管理者がゲートキーパー役となっていていつでも耳を貸していて、利用者の介護から職員の待遇面まで幅広く意見が出せている。統括管理者は職員より叱咤激励を頂くことで、日々の業務にメリハリができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの休暇希望を尊重して勤務シフトを組んでいる。労働時間には配慮し時間外勤務を極力しないように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じてスタッフと面談し、メンタルケアを心がけている。チームでのケアを大切にスタッフ一人一人の成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者同士が参加する連絡会が開催されている。情報交換を主にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者本人とご家族の意向をできるだけ聞き入れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	感染症対策に留意しつつ、必ずご家族の方と1対1で話す機会を持つようにしている。ご要望やご本人への思いなど聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけご本人とご家族がサービス利用にご理解をいただける環境を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活を共にする」ということにこだわっている。利用者一人一人をよく観察し、できることはご本人にさせていただくように生活をサポートしている。「お世話してもらっている」と感じないケアを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様への思いなどを聞き取る機会を大切にしている。手紙など、必要と思われる時には、いろいろな方法でご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙など、感染防止に配慮しながら、関係維持に努めている。	感染防止の観点から、現在は電話や手紙のやりとりを行うことで、馴染みの関係が途絶えないように工夫している。施設内に咲く桜の木の下で写真をとることが利用者の楽しみとなり、写真撮影が日課となっている。年賀状のやりとりは例年通り行い、満足感が保てた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染防止に努めながら、レクリエーションや普段のコミュニケーションを通して利用者様が交流できるように工夫をしている。関係作りもケアだと考え実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当GHから施設の移動をご希望された方が、新しい環境でも困惑されることがないように、介護サマリーを作成してお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何かしたいことはないか？ できることは何か？ どこに行きたいか？」など、心の声を引き出すケアを心がけている。職員間で話し合いをもつて検討している。	利用者が、テレビを観ている時のふとした発言や、お風呂での些細な会話で、要望や意向をも逃さずに聞き、ケース記録に記入している。話せない利用者に対しては、しぐさや目線で思いや意向を汲み取れるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握と情報を職員間で共有するよう努めている。今以上に利用者様一人一人の生き方に思いを巡らせて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人をよく観察し、できることはご本人にさせていただくように生活をサポートしている。心身ともに元気に生活していけるような支援を心がけている。ご本人のペースを大切にケアをと考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話合う機会を持ち、その結果が介護計画に反映できるように努めている。	介護計画は、入居時、1か月後、半年後、何かあればその都度見直しをしている。ケアミーティングや職員会議の中でもケアプランについて話し合っている。家族からの要望や意見も反映させていることで、安心できる介護計画の内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパッドを使った記録システムにより、ケア記録は十分記入、活用出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食べ物や寝起きの時間、入浴の頻度など、今以上に利用者様一人一人の思い通りの生活ができるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内のサービス提供を工夫して行っている。地域の名所や行事を取り込んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が2週間に一度往診に訪れるなど、密に連絡が取り合っている。必要であればご家族と一緒にスタッフも同行し日々の様子を報告し適切な指示のもと支援出来ている	施設の隣にある医院が24時間対応している。入居時に転医についての説明をし、ほとんどの利用者がかかりつけ医に転医される。1週間に1回、訪問看護があり、看護師とは何でも話せる関係が築けている。他科については、家族が付き添いで連れていってくれる。	月に1回、嚥下体操や歯磨き指導をお願いしてはいかがでしょうか？
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している医院の看護師が対応してくれているため、職員も気兼ねなく利用者様の体調について相談できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院へ行き、ご利用者様の介護状況を説明している。また退院後の生活が順調に送れるように情報提供していただいている。出来るだけ早期に退院できるように、入院病院との関係を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応、終末ケアについての方針をお伝えしている。かかりつけ医、看護師とも連携をとり、ご家族のご要望を聞く取り組みをしている。	ターミナルはしていないが、終末期ケアを経験した職員がいるので安心することができる。入居時にできること、できないことを丁寧に説明し、同意を得ている。何かあれば、ドクターと連携して決めている。協力医の看護師による勉強会を開催したこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行っている。職員全員が実践力を身につけることができるように、研修会なども行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についての訓練を行っている。自然災害や大規模災害への取り組みも、少しずつ取り組んでいる。	年2回、火災訓練を昼夜想定で実施した。法人内でのマニュアルやハザードマップは事務所に掲示しているので、いつでも確認することができる。3日間の備蓄があり、適宜交換をしている。避難場所まで、利用者に見立てた重りを担いで、運ぶ訓練をしたこともある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修の中で学習することにより、普段から職員も心がけている。	呼称は名字に「さん」付けだが、利用者の状況や家族の要望を聞きながら、本人が一番馴染む呼称で言葉掛けをしている。排泄失敗時には、「ええんで、ええんで」と言葉掛けをしたり、居室に入る時は必ずノックをしたりして、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人のご要望を聞いて対応するなど生活をサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の都合を優先した支援を心がけている。食べ物や寝起きの時間、入浴の頻度など、今以上に利用者様一人一人の思い通りの生活ができるようにしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気を配っている。利用者様それぞれのおしゃれ度合いに対応できるように配慮していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みの食材を使用するようになり、盛りつけや後片付けを利用者様に協力していただくことが増えた。手作り料理をする時もあり、利用者様と一緒に調理して楽しんでいる。	食事はケイタリングだが、季節感を味わえるような旬のものを提供するように心がけている。レクの一環として毎月1回、焼きそばやお好み焼きを調理し、皆で楽しみを囲むことができる機会を作っている。おはぎ、ぼたもち、ホットケーキといったおやつ作りも楽しみのひとつ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量をチェックして、利用者様それぞれの体調に合わせて調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを行えている。口腔ケアについての知識を深める活動を検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様は全員トイレで排泄行っている(ポータブルトイレ含む)。要介護度5であっても日中はおむつ使用していない。	日中はトイレ誘導を行い、夜間のみポータブルトイレを使用している。入居前は紙オムツだった利用者が、入居後に生活習慣が改善されたことにより、パットや布パンツになった事例も多数ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用頻度をできるだけ減らす介護を心がけている。毎日の日課で運動の機会を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はリラックスできる時間と認識しコミュニケーションに努めている。	入浴は週3回。希望があれば回数を増やすことも可能。入浴を拒む利用者はおらず、全員が浴槽に浸かる。真冬は暖房つけて快適な温度が保てるように配慮している。ゆず湯や菖蒲湯の日もあり、季節感を味わって頂くようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間を日課に設けている。その他、体調やご希望に応じて、休息をとっていただいている。夜間は安易に眠剤を使用せず、日中活動の疲れでスムーズな入眠が出来るよう日中活動を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見やすく管理し、状態に応じてかかりつけ医に相談しながら服薬を調整している。薬の変更や中止は理由や経緯を紙面に全スタッフが共有できるようにしている。服薬チェック表を作成し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁面への飾り付けや創作活動を工夫して行っている。出来る事はなるべくご自分で。介助やサポートは必要最低限にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止のため、外出行事を中止している。少人数で施設の周囲を歩いたり、移動することを中心に外出支援を楽しんだ。	遠出が出来ないので、近隣の散歩やヤギの見守り、施設内に咲く桜の木を見に行くことで、利用者の気分転換を図っている。花の水やりやゴミ出しをすることで日常生活でできることを新たな外出支援としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は外出して、買い物を楽しむ機会を設けていたが、コロナ感染防止のため、買い物外出できていない。今後検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話の対応を柔軟に対応出来ている。 お手紙のやりとりへの対応はご希望があれば今後対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快を招くような環境にはならないように配慮している。創作物や写真を壁面に飾ることで季節感を醸し出している。	明るさや臭いに注意し、室温も快適に過ごせる温度に調整している。リビングで過ごす利用者が多い。廊下の壁面には、各月に作られた作品が飾られている。リビングでは、玉入れや風船、シーツを使ったボール遊びをすることで、利用者が楽しく元気に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が同じように機能しているため生活スペースが限られている。家具の配置など工夫して行きたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真を飾り、ご本人の居室であることがわかるように工夫している。使い慣れた物などの持ち込みにも取り組んでいる。	ベッドの配置は、人が通れるくらい空けることで拘束にならないようにしている。居室の壁面には、敬老会の賞状や折り紙で作った花の作品が飾られていて、利用者が落ち着いて過ごせるようになっている。各居室のベランダは、避難経路として活用できる構造となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場など表示出来ている。認知症高齢者でもわかりやすい環境作りを職員が学び実践していきたい。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393700095		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム 湯郷 (B棟)		
所在地	岡山県美作市中山1483-1		
自己評価作成日	令和 3 年 3 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=3393700095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の尊厳を保持し、可能な限り自立支援を図ることを介護方針としています。認知症介護の専門機関として、「心温まるケア」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コロナ禍で何もできない」という言葉は一切使わず、利用者にほっとさせず、常に動くことを前提に、人の繋がりを深め、近隣の人々と関りが薄れないようにしている。近所にいるやぎの行動を見守りに行ったり、施設内の桜の花と一緒に記念撮影をしたり、町内のゴミ出しをしたり、近所の人とおしゃべりができる散歩を継続している。利用者は家族と会えない日々の欲求の解消を一葉の写真にしたため、家族との絆をつなぐアイテムとし、心温まるお便りとしてのふれあいを今も充実させている。統括管理者は管理者と共に、職員が介護している姿や利用者の情景を優しく見守り、日々に追われても、日々の管理業務にペンを走らせている。施設のために身を粉にして、傍を楽[働く]にし、人の助け合う気持ちを大切に共生社会の実現を目指す穏やかな施設が拝見できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットの管理者同士で「認知症専門ケアの実践」が合い言葉となっている。	理念は1階の玄関と事務所に掲示している。法人の理念が改正されたので、4月からは新しい理念を掲示する予定。新人職員には、オリエンテーションで法人理念と経営理念を紹介している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナの影響で、地域の祭がなかった。施設周辺の散歩の際、地域の方々と話す機会など、感染防止に留意しながら地域との関係維持に努めた。	以前は、地域のお祭りや高齢者サロンでの交流があったが、現在はコロナで中止となっている。町内会との繋がりがあり、地域のゴミ拾いや溝掃除に参加している。散歩中に近隣の人に欠かさず挨拶を交わし、地域との関係継続が途絶えないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	知識や技術の発信を目標に、取り組んでいる。積極的に実践していきたいと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年、事業内容、事故報告、利用者の入退所、職員の異動など報告を行ってきたが、今年はコロナの影響で、会議を行う事が出来なかった。事業内容などをまとめた紙面を運営推進委員様に郵送するなど、工夫した。	会議には、地区の元民生委員、市の高齢福祉課、包括、家族の代表が参加していた。今年度は書面でのやりとりをしている。写真も一緒に送ってほしいという要望があったので同封すると、家族や孫の写真が送られてくるようになったので、利用者が大いに喜んでくれた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染予防のため、運営推進会議へのご参加はしていただけなかった。提出物や報告をする際は、郵送せずに役場まで足を運び、直接手渡しすることを心がけている。特に事故や苦情に関しては、報告、相談をしている。	統括管理者はできるだけ、役場には足を運ぶように心がけている。担当者とは何でも話せる関係が築けていて、感染対策の情報交換も行った。現在は、FAXやメールでのやりとりも多く、わからないことがあれば何でも教えてくれる関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	窓や出入口も積極的に開けて開放的な空間作りを心がけている。対応に苦慮する場面でも、工夫をして身体拘束をしないケアをしている。	身体拘束はしていない。2ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催し、拘束については、職員会議でも話し合いをしていて、ベッドの柵やカギの掛け方、日々困っていることについて議論している。現在は、ドラッグロックにも細心の注意を払って職員と共有している。	スピーチロックなどの研修をしてみてもいいかがでしょうか？	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員対象に講習会を行い、虐待に当たる行為など基本的知識の確認を行っている。また組織運営面でも、職員がストレスを抱えこまないよう、人員調整や勤務状態に配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利擁護に関して、日々意識できるように指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族へ説明行っている。ご本人も極力交えて行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行うことが出来なかったが、利用者様と接する時間に集中できた1年だった。ご家族には面会の機会がないぶん、電話連絡や毎月写真配布をするなどして、情報発信を積極的に行った。	面会が出来ない分、電話連絡が中心となっている。お便りの郵送時に写真を同封することで、家族を身近に感じて頂けるような工夫をしている。預り金や出納帳がわかりにくいという意見があったので、手書きからパソコン入力に切り替えたら喜んでもらったことがあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が各ユニットで職員から意見・提案を受け入れるよう努めている。日々のコミュニケーションを重視し何でも相談できる関係を目指している。	職員はどんな意見でも話せる環境を求めている、各ユニットの管理者がゲートキーパー役となってもいつでも耳を貸していて、利用者の介護から職員の待遇面まで幅広く意見が出せている。統括管理者は職員より叱咤激励を頂くことで、日々の業務にメリハリができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの休暇希望を尊重して勤務シフトを組んでいる。労働時間には配慮し時間外勤務を極力しないように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じてスタッフと面談し、メンタルケアを心がけている。チームでのケアを大切にスタッフ一人一人の成長を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者同士が参加する連絡会が開催されている。情報交換を主にしている。地域の他職種連携研修に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者本人とご家族の意向をできるだけ聞き入れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	感染症対策に留意しつつ、必ずご家族の方と1対1で話す機会を持つようにしている。ご要望やご本人への思いなど聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけご本人とご家族がサービス利用にご理解をいただける環境を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「生活を共にする」ということにこだわっている。利用者一人一人をよく観察し、できることはご本人にさせていただくように生活をサポートしている。「お世話してもらっている」と感じないケアを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者様への思いなどを聞き取る機会を大切にしている。手紙など、必要と思われる時には、いろいろな方法でご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙など、感染防止に配慮しながら、関係維持に努めている。	感染防止の観点から、現在は電話や手紙のやりとりを行うことで、馴染みの関係が途絶えないように工夫している。施設内に咲く桜の木の下で写真をとることが利用者の楽しみとなり、写真撮影が日課となっている。年賀状のやりとりは例年通り行い、満足感が保てた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染防止に努めながら、レクリエーションや普段のコミュニケーションを通して利用者様が交流できるように工夫をしている。関係作りもケアだと考え実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当GHから施設の移動をご希望された方が、新しい環境でも困惑されることがないように、介護サマリーを作成してお渡ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何かしたいことはないか？ できることは何か？ どこに行きたいか？」など、心の声を引き出すケアを心がけている。職員間で話し合いをもって検討している。	利用者が、テレビを観ている時のふとした発言や、お風呂での些細な会話で、要望や意向をも逃さずに聞き、ケース記録に記入している。話せない利用者に対しては、しぐさや目線で思いや意向を汲み取れるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握と情報を職員間で共有するよう努めている。今以上に利用者様一人一人の生き方に思いを巡らせて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人をよく観察し、できることはご本人にさせていただくように生活をサポートしている。心身ともに元気に生活していけるような支援を心がけている。ご本人のペースを大切にケアを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話合う機会を持ち、その結果が介護計画に反映できるように努めている。	介護計画は、入居時、1か月後、半年後、何かあればその都度見直しをしている。ケアミーティングや職員会議の中でもケアプランについて話し合っている。家族からの要望や意見も反映させていることで、安心できる介護計画の内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパッドを使った記録システムにより、ケア記録は十分記入、活用出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食べ物や寝起きの時間、入浴の頻度など、今以上に利用者様一人一人の思い通りの生活ができるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内のサービス提供を工夫して行っている。地域の名所や行事を取り込んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が2週間に一度往診に訪れるなど、密に連絡が取り合えている。必要であればご家族と一緒にスタッフも同行し日々の様子を報告し適切な指示のもと支援出来ている	施設の隣にある医院が24時間対応している。入居時に転医についての説明をし、ほとんどの利用者がかかりつけ医に転医される。1週間に1回、訪問看護があり、看護師とは何でも話せる関係が築けている。他科については、家族が付き添いで連れていってくれる。	月に1回、嚥下体操や歯磨き指導をお願いしてはいかがでしょうか？
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している医院の看護師が対応してくれているため、職員も気兼ねなく利用者様の体調について相談できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院へ行き、ご利用者様の介護状況を説明している。また退院後の生活が順調に送れるように情報提供していただいている。出来るだけ早期に退院できるように、入院病院との関係を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応、終末ケアについての方針をお伝えしている。かかりつけ医、看護師とも連携をとり、ご家族のご要望を聞き取り組みをしている。	ターミナルはしていないが、終末期ケアを経験した職員がいるので安心することができる。入居時にできること、できないことを丁寧に説明し、同意を得ている。何かあれば、ドクターと連携して決めている。協力医の看護師による勉強会を開催したこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を行っている。職員全員が実践力を身につけることができるように、研修会なども行っていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災についての訓練を行っている。自然災害や大規模災害への取り組みも、少しずつ取り組んでいる。	年2回、火災訓練を昼夜想定で実施した。法人内でのマニュアルやハザードマップは事務所に掲示しているので、いつでも確認することができる。3日間の備蓄があり、適宜交換をしている。避難場所まで、利用者に見立てた重りを担いで、運ぶ訓練をしたこともある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修の中で学習することにより、普段から職員も心がけている。	呼称は名字に「さん」付けだが、利用者の状況や家族の要望を聞きながら、本人が一番馴染む呼称で言葉掛けをしている。排泄失敗時には、「ええんで、ええんで」と言葉掛けをしたり、居室に入る時は必ずノックをしたりして、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人のご要望を聞いて対応するなど生活をサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の都合を優先した支援を心がけている。食べ物や寝起きの時間、入浴の頻度など、今以上に利用者様一人一人の思い通りの生活ができるようにしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気を配っている。利用者様それぞれのおしゃれ度合いに対応できるように配慮していきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みの食材を使用するようになり、盛りつけや後片付けを利用者様に協力していただくことが増えた。手作り料理をする時もあり、利用者様と一緒に調理して楽しんでいる。	食事はケイタリングだが、季節感を味わえるようなものを提供するように心がけている。レクの一環として毎月1回、焼きそばやお好み焼きを調理し、皆で楽しみを囲むことができる機会を作っている。おはぎ、ぼたもち、ホットケーキといったおやつ作りも楽しみのひとつ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量をチェックして、利用者様それぞれの体調に合わせて調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きを行えている。口腔ケアについての知識を深める活動を検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様は全員トイレで排泄行っている（ポータブルトイレ含む）。要介護度5であっても日中はおむつ使用していない。	日中はトイレ誘導を行い、夜間のみポータブルトイレを使用している。入居前は紙オムツだった利用者が、入居後に生活習慣が改善されたことにより、パットや布パンツになった事例も多数ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用頻度をできるだけ減らす介護を心がけている。毎日の日課で運動の機会を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はリラックスできる時間と認識しコミュニケーションに努めている。	入浴は週3回。希望があれば回数を増やすことも可能。入浴を拒む利用者はおらず、全員が浴槽に浸かる。真冬は暖房つけて快適な温度が保てるように配慮している。ゆず湯や菖蒲湯の日もあり、季節感を味わって頂くようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間を日課に設けている。その他、体調やご希望に応じて、休息をとっていただいている。夜間は安易に眠剤を使用せず、日中活動の疲れでスムーズな入眠が出来るよう日中活動を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見やすく管理し、状態に応じてかかりつけ医に相談しながら服薬を調整している。薬の変更や中止は理由や経緯を紙面に全スタッフが共有できるようにしている。服薬チェック表を作成し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁面への飾り付けや創作活動を工夫して行っている。出来る事はなるべくご自分で。介助やサポートは必要最低限にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止のため、外出行事を中止している。少人数で施設の周囲を歩いたり、移動することを中心に外出支援を楽しんだ。	遠出が出来ないので、近隣の散歩やヤギの見守り、施設内に咲く桜の木を見に行くことで、利用者の気分転換を図っている。花の水やりやゴミ出しをすることで日常生活でできることを新たな外出支援としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は外出して、買い物を楽しむ機会を設けていたが、コロナ感染防止のため、買い物外出できていない。今後検討していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話の対応を柔軟に対応出来ている。 お手紙のやりとりへの対応はご希望があれば今後対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快を招くような環境にはならないように配慮している。創作物や写真を壁面に飾ることで季節感を醸し出している。	明るさや臭いに注意し、室温も快適に過ごせる温度に調整している。リビングで過ごす利用者が多い。廊下の壁面には、各月に作られた作品が飾られている。リビングでは、玉入れや風船、シーツを使ったボール遊びをすることで、利用者が楽しく元気よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂が同じように機能しているため生活スペースが限られている。家具の配置など工夫して行きたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との写真を飾り、ご本人の居室であることがわかるように工夫している。使い慣れた物などの持ち込みにも取り組んでいる。	ベッドの配置は、人が通れるくらい空けることで拘束にならないようにしている。居室の壁面には、敬老会の賞状や折り紙で作った花の作品が飾られていて、利用者が落ち着いて過ごせるようになっている。各居室のベランダは、避難経路として活用できる構造となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場など表示出来ている。認知症高齢者でもわかりやすい環境作りを職員が学び実践していきたい。		